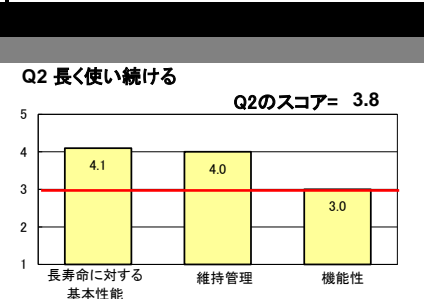
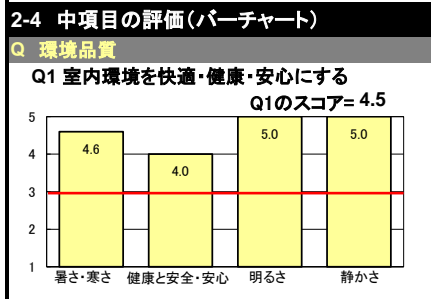
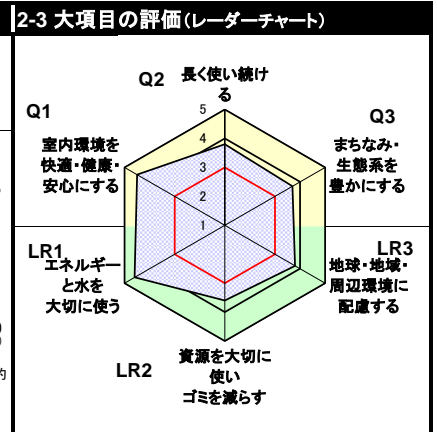
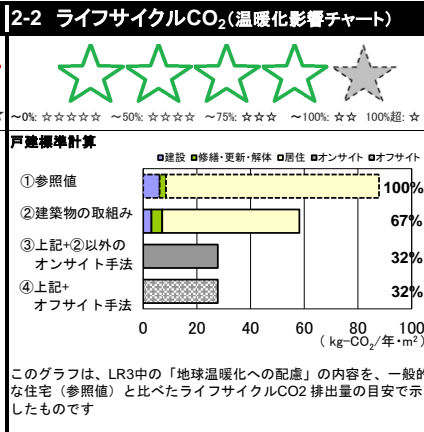
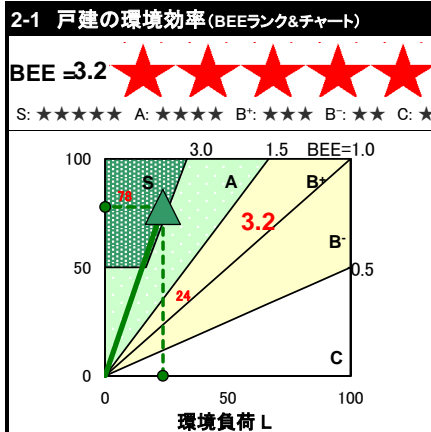


CASBEE[®]-戸建(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-戸建(新築) 2018年版 ■使用評価ソフト: CASBEE-DH_NC_2018v1.0

1-1 建物概要			1-2 外観		
建物名称	阪本 一郎 様邸		仕様等の確定状況	建物の仕様	一部確定
竣工年月	2019年4月			持ち込み家電等	仮
建設地	千歳市桜木5丁目974-54		<備考>	外構の仕様	一部確定
用途地域	第一種低層住居専用地域			確定	
省エネルギー地域区分	2地域				
構造・構法	木造				
階数	2				
敷地面積	273 m ²		評価の実施日	2018年12月15日	
建築面積	76 m ²		作成者	三ノ宮 浩	
延床面積	135 m ²		確認日	2018年12月15日	
世帯人数	4		確認者	三ノ宮 浩	



3 設計上の配慮事項

総合
建設地は、JR千歳駅の西北西約4.2kmの道央自動車道と国道36号の中間に位置する区画された住宅地にある。前面道路に対し、空地を設けて周辺環境と調和するように建物を配置。建物は、付加断熱の高断熱仕様で全館暖冷房と全熱交換型1種換気扇を用いて室間の温度差が少なく快適に過ごせるようにした。また、太陽光発電パネルを屋根面と外壁面に搭載し、エネルギーの自立化を図った。

その他
●建設地は、古い住宅地にあり住宅は新築。基礎は変えていない。

Q1 室内環境を快適・健康・安心にする
●省エネ基準を大幅にクリアするUA=0.21W/m²K。サッシは樹脂製でトリプルLow-Eガラスを採用。●全館冷暖房に全熱交換型1種換気扇を採用。●VOC等に配慮したF☆☆☆☆☆建材または無垢材を使用。●足がかりを作らない、大型開口を設けない等

Q2 長く使い続ける
●地盤調査に基づく安全な基礎方式と形状の検討 ●耐震等級3 ●基礎断熱、外壁通期構造、連続した断熱区画、防湿シートの設置による躯体の高耐久化

Q3 まちなみ・生態系を豊かにする
●前面道路側は、周辺戸に合わせて外壁面をセットバックしている。

LR1 エネルギーと水を大切に使う
●高断熱で暖冷房エネルギーの消費を抑え、自然冷媒(CO₂)ヒートポンプ給湯器を採用 ●太陽光パネルは、屋根面に加え、壁面にも設置

LR2 資源を大切に使いゴミを減らす
●リサイクル材を積極的に採用していないが、内外装材共に省資源・廃棄物抑制につながる材料・工法を用いている

LR3 地球・地域・周辺環境に配慮する
●建物をセットバックして出来た空地は、植栽スペースとして緑地を確保した。●緑地には、シンボルツリーや食糧木が植栽できるスペースを設ける

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (環境品質), L: Load (環境負荷), LR: Load Reduction (環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (環境効率)

■CASBEE全体の表記ルールに従えば、CASBEE-戸建(新築)の場合、BEE_H、Q_H、LR_Hなどとすべきであるが、本シート上では簡略化のためHを省略した

■「ライフサイクルCO₂」とは住宅の部材生産・建設から居住、改修、解体廃業に至る一生の間の二酸化炭素排出量であり、ここでは住宅の寿命年数と延床面積で除した値を示す

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q₂、LR₁中の住宅の寿命、省エネルギーなどの項目の評価結果から自動的に算出される(「戸建標準計算」の場合)